

採算性の試算（運行台数 2 台）

- 試算設定 1 新しい地域交通の設定は、「A I オンデマンド交通」とする。（最適な交通モードは別途議論する。）
- 試算設定 2 運転手は、運行台数1台につき3人確保する。（分科会（第4回）での米澤委員の意見を踏まえて設定するものである。）
- 試算設定 3 運行台数は 2 台、運行日数は 3 6 5 日、運行時間は 9 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0 の 9 時間とする。

ア 人件費（1日あたり）		（1年あたり）	
130,137 [円/日]		47,500,000 [円/年]	
=（運転手年収×交代要員込み人数×法定福利費等の経費率＋電話対応等の人件費）÷運行日数			
=（5,000,000 [円/年・人] × 6 [人] × 1.5 ＋ 5,000,000 [円/年・人] × 0.5）÷ 365 [日/年]			
<引用> 運転手年収5,000,000 [円/年・人] は、分科会（第2回）での交運労協バス部舟山委員の発言「都内バス労働者の平均収入は大体450～500万円」から引用したもの。			
<引用> 法定福利費等の経費率1.5は、ネット記事「現役バス運転士が損益分岐点を計算した解説」から路線バスの経費率を引用したもの。			
<参考> 電話対応等の人件費5,000,000 [円/年・人] × 0.5は、ネット記事「現役バス運転士が損益分岐点を計算した解説」の人件費率×1.5を参考にし、既存交通の営業所等での事務員が、デマンド交通の電話応対等を兼任するとしたもの。			
イ 車両費			
(ア) 車両価格等			
a 車両価格			
3,780,000 [円/台]		（車両価格、税込み、諸費用15万円含む）	
※ 車種：トヨタハイエース ワゴン グランドキャビン 2022年式中古車（走行距離1.3万km）			
※ 車両諸元：全長5,380mm、全幅1,880mm、全高2,285mm、燃費WLTCモード8.8～8.1km/L、総排気量2.693L、ガソリン、10人乗り）（トヨタ自動車のHPからカタログの記載事項を引用したもの。）			
b カスタム費			
(a) 乗降部への手すり取付費用			
85,800 [円/台]			
<引用> 車いすのプロショップ「イフ」の通販サイトから、Bピラー用手すり、Cピラー用手すりの販売価格を引用したもの。			
(b) 乗降部への電動ステップ取付費用			
297,000 [円/台]			
<引用> 車いすのプロショップ「イフ」の通販サイトから、電動幅広補助ステップの販売価格を引用したもの。			
(c) その他改装費用			
756,000 [円/台]			
=車両価格×20%			
c 車両価格等（1台1日あたり）		（1台1年あたり）	
1,685 [円/台・日]		614,850 [円/台・年]	
=（車両価格＋カスタム費）÷使用年数÷運行日数			
=（3,780,000 [円/台] ＋ 1,138,800 [円/台]）÷ 8 [年] ÷ 365 [日/年]			
(イ) 車両維持費（1台1日あたり）（車検・整備・修繕・税金等）		（1台1年あたり）	
1,407 [円/台・日]		513,414 [円/台・年]	
= 513,414 [円/台・年] ÷ 365 [日/年]			
※ 513,414 [円/台・年] は、車検200,000円、整備・修繕200,000円、緑・3ナンバーとして、重量税41,000円、自賠責28,780円/25ヶ月＝13,814円/12月、自動車税58,600円を合計したもの。			
(ロ) 車両費（1日あたり）		（1年あたり）	
9,273 [円/日]		3,384,792 [円/年]	
= {（車両価格等＋車両維持費）×予備車両込み台数} ÷稼働率			
= {（1,685 [円/台・日] ＋ 1,407 [円/台・日]）× 3 [台]} ÷ 100 %			
ウ システム費（1日あたり）		（1年あたり）	
22,192 [円/日]		8,100,000 [円/年]	
= システム使用料等 8,100,000 [円/年] ÷ 365 [日/年]			
<参考> M社：300万円/年＋利用料25万円/月（車両4台まで） ※ タブレット4台まで貸出し費用込み、通信費用込み			
<参考> D社：初期費用80万円＋利用料20万円/月＋タブレット7万円/台＋通信料2,500円/月 ※ 導入運営支援費用は必要に応じて別途			
<参考> A社：初期費用50万円＋利用料20万円/月＋カスタマイズ費用500万円/年 ※ タブレット費用、通信料は含まず			
※ システム利用料等は、（A社の初期費用50万円＋利用料20万円/月×12月＋カスタマイズ費用500万円/年）＋（D社のタブレット7万円/台＋通信料2,500円/月×12月）で算出したもの。			
エ 燃料費（1日あたり）		（1年あたり）	
1,369 [円/日]		499,644 [円/年]	
=ガソリン価格×走行距離÷燃費			
=ガソリン価格×（表定速度×運行時間）÷燃費×実燃費率			
= 176 [円/L] ×（10 [km/h] × 9 [時間/日]）÷ 8.1 [km/L] × 0.7			
※ 走行距離：1日1台あたりの走行距離で、表定速度×運行時間にて算出			
※ 表定速度：停車時間も加味した1日あたりの平均速度			
※ 運行時間：9：00～18：00の9時間を想定			
<引用> 表定速度10 [km/h] は、茨城県常総市でのデマンド交通等に関する研究論文から、市街地地区の平均速度を引用したもの。			

オ 運行経費（１日あたり）		（１年あたり）	
211,651 〔円/日〕		77,252,515 〔円/年〕	
＝（人件費＋車両費＋システム費＋燃料費）÷（１－雑費率）			
＝（ 130,137 〔円/日〕 ＋ 9,273 〔円/日〕 ＋ 22,192 〔円/日〕 ＋ 1,369 〔円/日〕 ） ÷ （ 1 － 0.23 ）			
※ 雑費率：約２３％（施設管理費、一般管理費、税金、配当等）			
カ 損益分岐点（２台運行・１時間あたり）			
23,517 〔円/時間〕			
＝運行経費÷運行時間			
＝ 211,651 〔円/日〕 ÷ 9 〔時間/日〕			
◆キ 損益分岐点を超える乗客数（２台運行・１時間あたり）			
(ア) 利用料金500 〔円/人〕 の場合：		47 〔人/時間〕	(＝損益分岐点÷利用料金 ＝ 23,517 〔円/時間〕 ÷ 500 〔円/人〕)
(イ) 利用料金400 〔円/人〕 の場合：		59 〔人/時間〕	(＝ 同上 ＝ 23,517 〔円/時間〕 ÷ 400 〔円/人〕)
(ウ) 利用料金300 〔円/人〕 の場合：		78 〔人/時間〕	(＝ 同上 ＝ 23,517 〔円/時間〕 ÷ 300 〔円/人〕)
ク 補助金			
(ア) 国（地域公共交通確保維持改善事業費補助金（新モビリティサービス推進事業））			
2,700,000 〔円〕			
＝システム費（１年あたり）×補助率1/3			
＝ 8,100,000 〔円〕 × 1/3			
対象事業者： 新型輸送サービス導入支援事業（AIオンデマンド交通等）は、「公共交通事業者、地公体、これらを構成員とする協議会」			
対象経費：・ AIオンデマンド交通等の導入に必要なシステム整備費及び利用促進に係る経費			
・ AIオンデマンド交通等に利用する車両に搭載する運行管理用機器の導入費			
・ AIオンデマンド交通等の旅客乗降位置の標示又は標識の設置費			
補助金額： 「補助対象経費の実績額に、補助率を乗じて得た額」、「補助金交付決定額」、「補助対象経費から当該事業に係る収入に相当する額を控除した額に、補助率を乗じて得た額」のうち、いずれか少ない額			
補助率： 1/3			
(イ) 都（東京都持続可能な地域公共交通実現に向けた事業費補助金）			
3,622,000 〔円〕			
＝ {（システム費（１年あたり）－国補助金）×補助率1/2 } ＋（車両価格等（１台１年あたり）×２台×補助率1/2）			
＝（ 8,100,000 〔円〕 － 2,700,000 〔円〕 ） ÷ 2 ＋ 614,850 〔円/台〕 × 3 〔台〕 ÷ 2			
＝ 2,700,000 〔円〕 ＋ 922,000 〔円〕			
対象事業： 区市町村等が実施する区域運行など			
実施主体： 区市町村（ただし、補助金交付対象事業の運営を他の団体等に委託、助成、協定締結による共同実施等可）			
対象経費：・ 設備費 補助率1/2、限度額は1区域当たり1,650,000円/月（＝19,800,000円/年）			
・ 車両購入費（改装費含む） 補助率1/2、限度額は1区域当たり6,000,000円			
・ 対象経費から運賃等収入額を控除			
・ 国庫補助金その他の補助金等の交付額を控除			
ケ その他収入（利用料金収入以外）			
7,725,000 〔円〕			
＝ 運行経費（１年あたり）×１０％			
＝ 77,252,515 〔円/年〕 × 0.1			
<参考> 大阪メトロによるオンデマンドバスでの取組みの紹介			
運行経費について２０２５年度に対２０２２年度比で３割削減するとともに、その他の収入について以下の取組みを拡販・開始し、運行経費の７割程度確保することを目標にしている。			
・ 乗降場所・ネーミングライツ販売		収益性の想定	大
・ 法人オンデマンドサービス		収益性の想定	大
・ モビリティサブスク		収益性の想定	中
・ 医療MaaS		収益性の想定	小
・ 生活サブスク		収益性の想定	中
・ 貨客混載・物流		収益性の想定	小
コ 損益分岐点（２台運行・１時間あたり）（補助金、その他収入以外を考慮）			
19,241 〔円/時間〕			
＝〔運行経費－ {（補助金＋その他収入）÷365日}〕÷運行時間			
＝ [211,651 〔円/日〕 － {（ 6,322,000 〔円〕 ＋ 7,725,000 〔円〕 ） ÷ 365 〔日〕 }] ÷ 9 〔時間/日〕			
◆サ 損益分岐点を超える乗客数（２台運行・１時間あたり）（補助金、その他収入以外を考慮）			
(ア) 利用料金500 〔円/人〕 の場合：		38 〔人/時間〕	(＝損益分岐点÷利用料金 ＝ 19,241 〔円/時間〕 ÷ 500 〔円/人〕)
(イ) 利用料金400 〔円/人〕 の場合：		48 〔人/時間〕	(＝ 同上 ＝ 19,241 〔円/時間〕 ÷ 400 〔円/人〕)
(ウ) 利用料金300 〔円/人〕 の場合：		64 〔人/時間〕	(＝ 同上 ＝ 19,241 〔円/時間〕 ÷ 300 〔円/人〕)